

事業所名

スマートキッズプラス瑞江

支援プログラム

作成日

2025年

1月

10日

法人(事業所)理念		教育の力により、一人ひとりの可能性を最大限支援することによって、共生社会の実現に貢献します			
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> 子どもが主体的に課題に取り組めるよう、子ども自身の力を信じ、思いに寄り添った関わりをもつ。 社会生活に必要な力を育むために、一人ひとりに合わせた課題をスモールステップで設定し、成功体験に繋げる。 地域や関連機関と密接に連携し、子どもとその家族に最適な支援を検討し、提供を行う。 			
営業時間		13時30分から	18時0分まで	送迎実施の有無	あり なし
支援内容					
支援方法		個別課題		集団・小集団課題	
本人支援	健康・生活	生活スキルとしての清潔の維持や身だしなみ管理の課題 生活スキル獲得のための食具の操作や道具操作などの課題 利用者を主体とした自身で取り組むトイレトレーニングの課題		危険個所の理解や災害時等に関する避難訓練の実施 自立した生活を送るための買い物学習 身だしなみや清潔保持に関する知識習得のための活動	
	運動・感覚	身体全体の機能向上のための粗大運動(例:ハードル、サーキット運動等)の課題 指先の機能の向上のための微細運動(例:洗濯ばさみ、プットイン等)の課題 活動時や課題実施時の姿勢保持の課題		模倣や体幹、粗大運動に関わる活動(体操、ダンス、ボール運動等) 指先の操作や巧緻性のための微細運動(製作等) 体幹や姿勢保持・ボディイメージの形成のための活動(バランスボール、平均台等)	
	認知・行動	数字の理解や計算の習得に関わる課題 金銭の概念や計算についての理解に関わる課題 時計や数量についての理解に関わる課題		金銭の理解に関わる活動(お買い物練習、金額当てクイズ等) 興味・関心の幅を広げるための活動(日本の文化に親しむ(書初め・正月遊び等)) 数字の理解に関わる活動(全部でいくつ?、数字当てゲーム、ビンゴゲーム等)	
	言語・コミュニケーション	コミュニケーションスキルの獲得・向上のための(指差し、身振り、サイン等)の課題 人との相互作用によるコミュニケーションとしての1対1での関わり課題 文字・記号、絵カード等の適切なコミュニケーション手段を活用するための課題		文字やイラストを用いたコミュニケーションの活動(かるた、絵しりとり等) 口頭以外でのコミュニケーションの練習活動(ジェスチャーゲーム、手話、絵カード等) 意思表示の言語と選択のための活動(はい・いいえ・どちらでもない等)	
	人間関係・社会性	社会でのルール理解や他者との関わりに関する課題(SST) 自身の感情理解やコントロールとしての切替・クールダウンに関する課題 適切な距離感や丁寧な言葉への理解に関する課題		他者と自分の関係性や距離感の理解のための活動(パーソナルスペース、プライベートゾーン) 社会性の向上のための活動(SST、ルールを守って協力ゲーム等) 自己理解・他者理解のための活動(自己紹介をしてみよう、気持ちの良い言い方・伝え方、クッション言葉、アサーション等)	
家族支援		保護者に対して、発達検査や本事業所内での様子、家庭での情報を踏まえてアセスメントした内容を共有する。また、現状の発達段階や特性についての対応も明確にし、本事業所で対応していることを家庭でも取り組めるように共有していく。 保護者との面談や支援内容の共有の時間を通して、発達段階における基本対応や特性に関する基本情報の提供を行い、家庭で可能な適切な対応に関して助言を行う。		移行支援	当事業所で作成の個別支援計画を他機関と共有し、課題として取り組んでいることを日常で実践できるように支え取り組むことで、利用者に対する支援の統一を図る。 学校、他事業所と利用者に対して支援対応を一貫するために、対応方法について定期的に連携を行う。
地域支援・地域連携		関係機関がそれぞれで得られた情報を共有すると共に役割分担を行い、当事業所のできる支援について明確に示し、利用者ひいては家族にとつてのQOL向上のための支援や将来に向けた対策について提案する。 担当の相談支援専門員と定期的に情報交換を行い、相談支援専門員を通して他事業所や学校等との連携を進める。		職員の質の向上	経験年数別の階層別療育研修・組織人研修、虐待防止研修、感染症対策防止研修等の実施。 心理士等専門家を交えたミーティング、事例検討の定期実施。
主な行事等		避難訓練(火事、地震、防犯等)、課外活動(お買い物、公園へ行く)、調理活動(カップラーメン作り、パフェ作り)、保護者会、療育参観、夏祭り、クリスマス会、その他			